

大阪湾漁場環境速報

2024年 4月 9日発行
兵庫のり研究所

湾東部において、小型珪藻が大量発生しています。窒素は、陸水等の影響が見られた湾奥部で7 $\mu\text{g-at/L}$ 以上、その他の海域では概ね1 $\mu\text{g-at/L}$ 前後の値となっています。

※昨年度は荒天により欠測となっています。

(水温) 表層は12~14°C台で、平均13.2°C。平年比0.5°C高い。-10m層は平均12.0°C (平年比-0.3°C)。

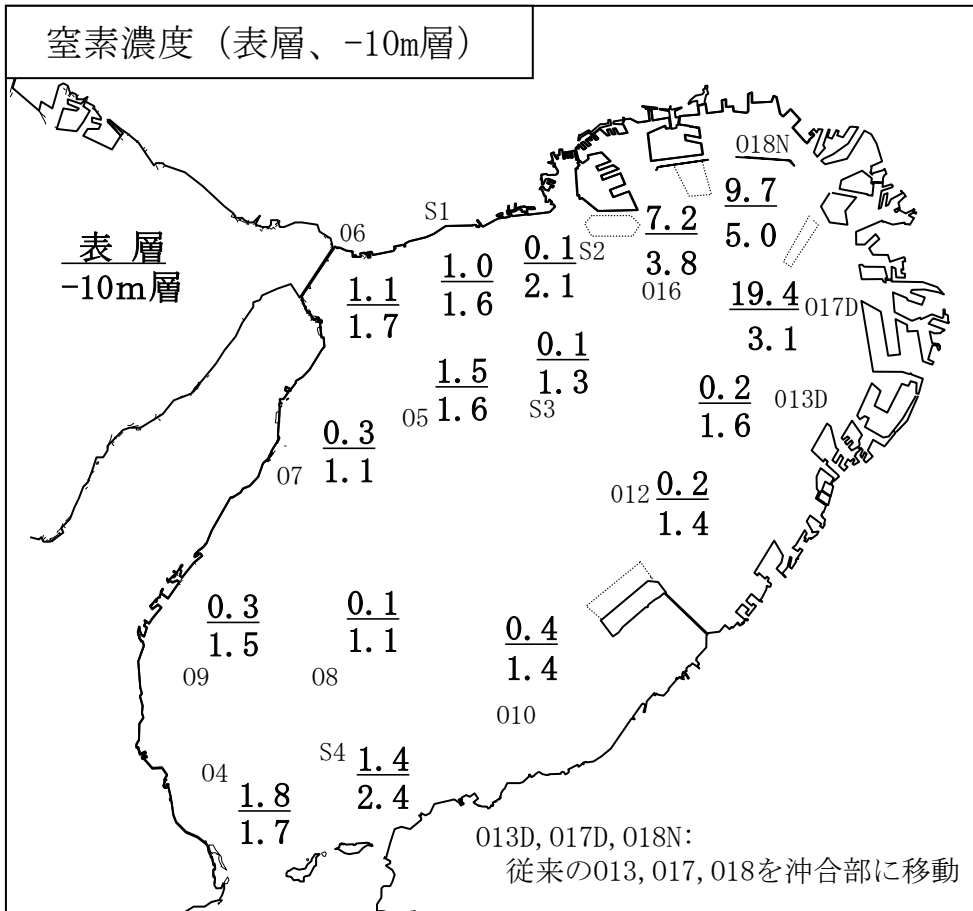
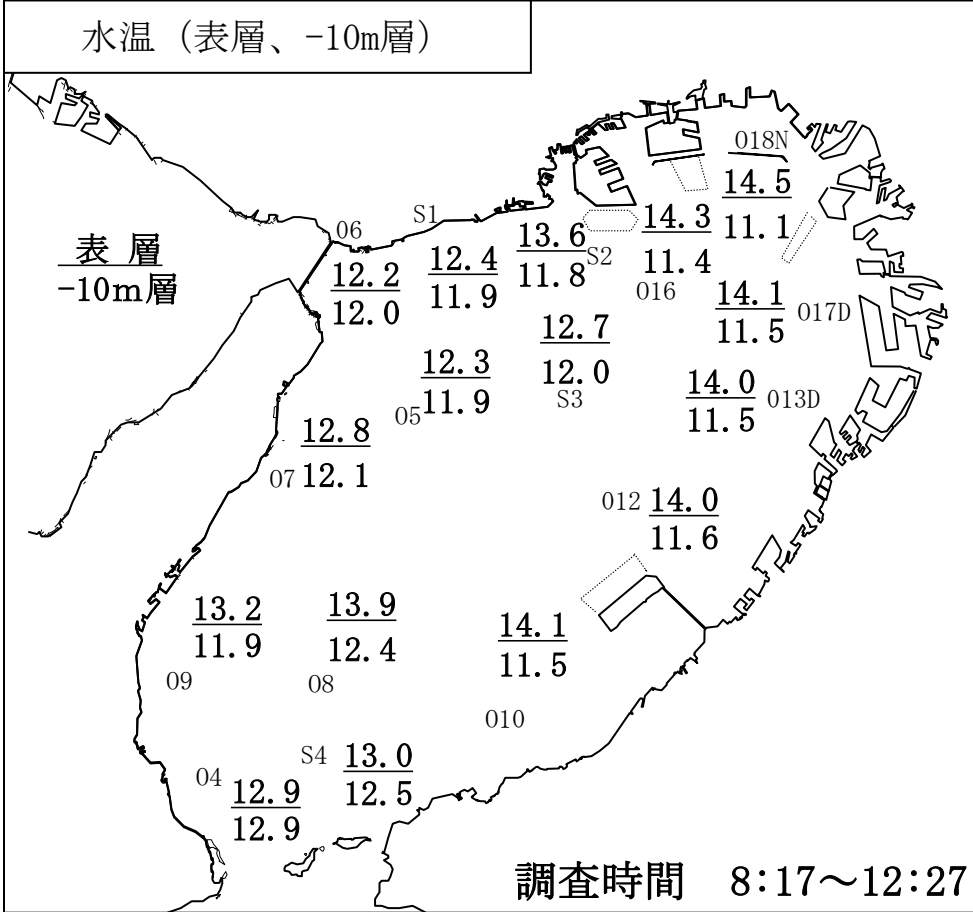
(塩分) 表層平均30.74psu(平年 31.58)。-10m層平均32.17psu(平年 32.28)。

(栄養塩、他) 表層の窒素は平均1.2 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均0.11 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年(1.5 $\mu\text{g-at/L}$)より低く、リンも平年(0.13 $\mu\text{g-at/L}$)より低い。-10m層(平均)は、窒素1.8 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.26 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は、陸水の影響が見られる湾奥部の表層で7 $\mu\text{g-at/L}$ 以上、明石海峡及び紀淡海峡周辺で1 $\mu\text{g-at/L}$ 台、その他の海域で1 $\mu\text{g-at/L}$ 以下、-10m層では海域全般に概ね1~2 $\mu\text{g-at/L}$ 台の値であった。湾中央から東部にかけて、小型珪藻のキートセロス、スケルトネマ、ニッチア等が大量発生しており、湾奥では赤潮として目視で確認された。大型珪藻ユーカンピアも、湾東部において確認されるが、発生量は少ない。明石海峡及び紀淡海峡周辺では、レプトシリンダラス、ニッチア等は確認されるが、発生量は少ない状況であった。

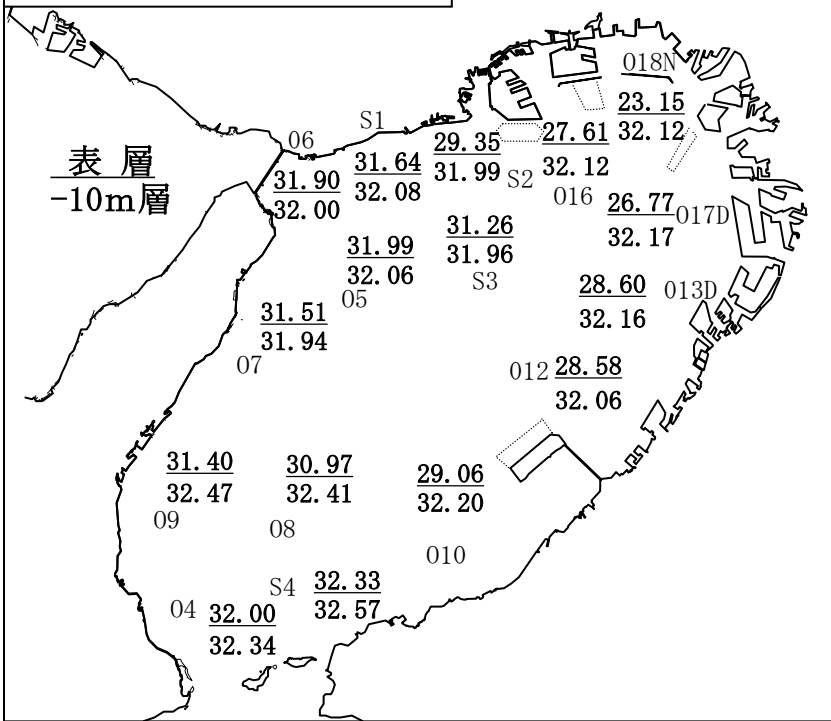
神戸地先と神戸沖及び淡路東浦海域において、夜光虫が多く確認されており、淡路東浦海域では、強い赤潮として目視で確認された。

上段 (今回値)	2024年 4月 8日調査
中段 (昨年度)	
下段 (平年度)	4月上旬

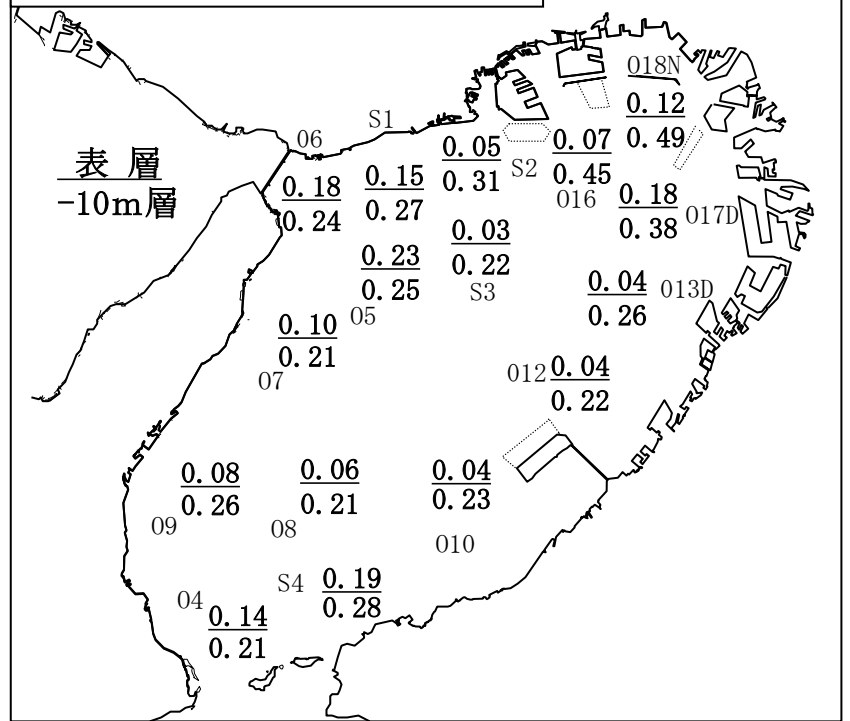
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	リン ($\mu\text{g-at/L}$)
04	12.9	32.00	1.8	0.14
	13.3	32.73	2.4	0.23
05	12.3	31.99	1.5	0.23
	12.6	32.17	1.9	0.21
06	12.2	31.90	1.1	0.18
	12.3	31.83	2.5	0.22
07	12.8	31.51	0.3	0.10
	12.7	31.92	1.2	0.14
08	13.9	30.97	0.1	0.06
	12.8	32.01	0.7	0.10
09	13.2	31.40	0.3	0.08
	13.0	32.09	0.8	0.11
010	14.1	29.06	0.4	0.04
	12.7	31.49	0.7	0.08
012	14.0	28.58	0.2	0.04
	12.8	30.49	1.3	0.06
013D	14.0	28.60	0.2	0.04
	12.5	29.98	1.5	0.07
016	14.3	27.61	7.2	0.07
	12.5	29.81	2.1	0.07
017D	14.1	26.77	19.4	0.18
	12.7	28.74	13.0	0.21
018N	14.5	23.15	9.7	0.12
	13.1	24.16	17.6	0.28
S1	12.4	31.64	1.0	0.15
	12.3	31.40	2.0	0.13
S2	13.6	29.35	0.1	0.05
	12.3	30.47	1.3	0.06
S3	12.7	31.26	0.1	0.03
	12.4	31.82	1.0	0.13
S4	13.0	32.33	1.4	0.19
	13.0	32.32	1.4	0.15



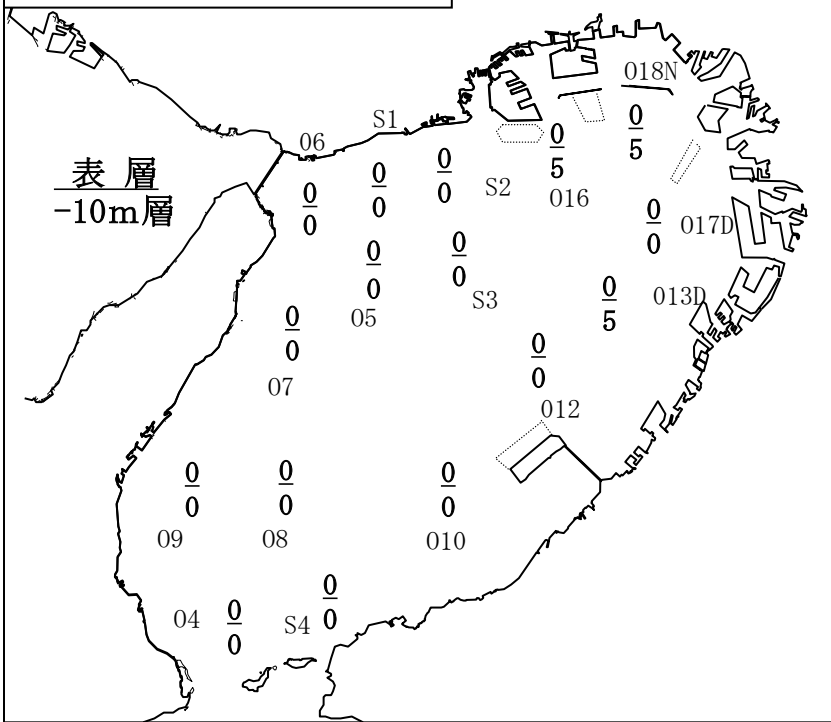
塩分 (表層、-10m層)



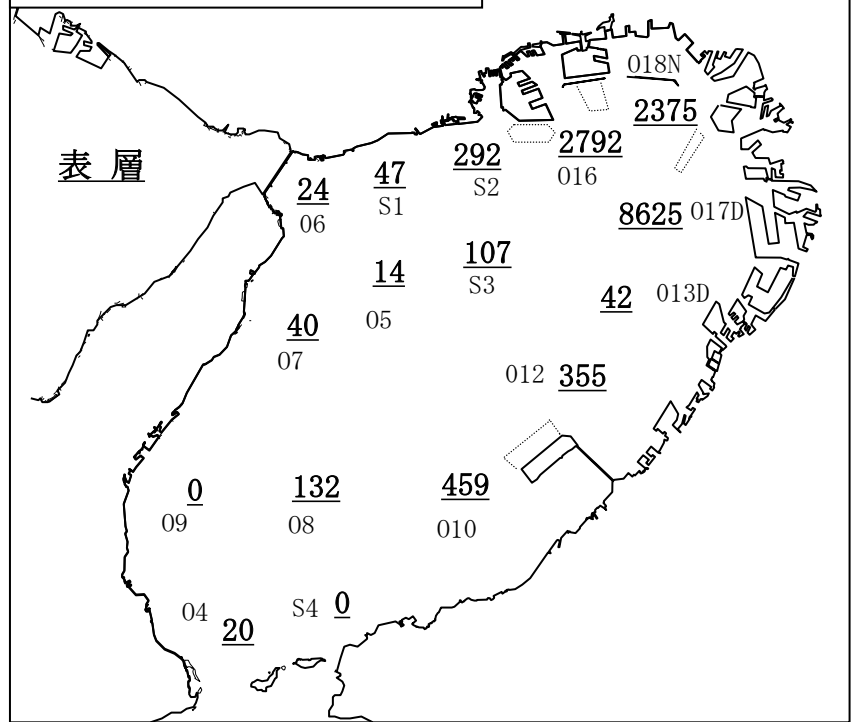
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

